

日本野鳥の会は2019年から、この先もツバメと人との共存が続くことを願い、ツバメの巣や生息環境を温かく見守っている団体に感謝状を贈呈しています。県内では、今年度はじめて「若狭町観光船レイクルーズ」に贈呈し、引き続き「若狭町立気山小学校」に感謝状を贈呈しました。

若狭町立気山小学校では、1989年に現在の場所に校舎を新築した時からコシアカツバメが営巣を開始しました。3、4年生が毎年5月から6月にかけて営巣を観察するようになって10年経過。校舎の軒下に作る巣を観察するほか、集落内のツバメの巣との違いを観察したり、エサとなる昆虫を学校横の水田で捕虫網を振って観察したり、泥と藁を使って実際にコシアカツバメの徳利状の巣を作ってみたりなど多彩な取り組みを行ってきました。

観察をしていくうちに子どもたちは、スズメがコシアカツバメの巣を乗っ取ることに気づき、完成間近の巣に近づくスズメを追い払って、コシアカツバメの子育てを応援しようとする気持ちが高まりました。

この間、日本野鳥の会福井県では、毎年講師を派遣し子どもたちの疑問に答えたり、巣の観察をサポートしたりしてきました。

7月14日、気山小学校の全校児童の前で、本会代表の小嶋明男から児童代表に感謝状を贈呈しました。そのあと、小嶋と本会副代表の武田真澄美がツバメ3種の違いや、コシアカツバメの越冬地、コシアカツバメが全国的に減っている事、気山小学校に毎年子育てにやってくるわけなどのお話をしました。



気山小のコシアカツバメの巣



コシアカツバメの観察風景



コシアカツバメの出入りを観察



児童代表に感謝状を贈呈